



編集兼発行
公益財団 小笠原協会
東京都港区海岸1-12-2
竹芝客船ターミナル2階
電話 03-3432-4921
FAX 03-3432-4487
振替貯金口座(郵便)
00190-9-64610
みずほ銀行芝支店
普通 3242428

会長就任ご挨拶

公益財団法人
小笠原協会 会長
遠藤 雅彦



旧島民、島民、会員の皆様、小笠原関係者の皆様、はじめまして。

6月26日に開催された小笠原協会評議員会・理事会において、協会の理事・会長に選任されました遠藤雅彦です。昭和40年の発足以来、60年の長い歴史と伝統ある協会の会長を務めさせて頂くことに身の引き締まる思いです。もとより浅学非才の身ではありますが、協会の円滑な運営と小笠原の発展に微力を尽くす所存でございます。皆様からのご指導、ご支援を頂きますよう心からお願ひ申し上げます。さて、私は昭和57年に東京都に入都以来、38年間にわたり都庁に勤務し、総務局長を最後に退職致しました。ご存じのこととは思いますが、総務局は多摩及び島しょ地域の振興を所管しており、小笠原諸島振興開発計画の改定・推進や小笠原航空路協議会への参加などに直接関わってまいりました。その点では小笠原に関する行政上の課題について一定程度の知識は有していると思っております。一方で、歴代の会長とは異なり、これまで

小笠原協会の事務事業に深く関わったことがなく、旧島民の方々から直接お話を聴く機会もありませんでした。今後は積極的に知識を身に付けるとともに、いい意味で初心者らしく新しい感覚で業務運営に取り組んでいきたいと考えています。その上で、私なりに今後の協会運営に対する考え方の一端を申し上げます。第一は、基幹的な業務の徹底です。協会の目的は定款で「小笠原諸島の基礎条件の改善並びに地理的及び自然的特性に即した振興開発を基に、帰島を希望する旧島民の帰島を促進し、もって小笠原諸島の自立的発展並びに住民の生活の安定及び福祉の向上に資する」と定められております。戦後80年の節目を迎えた今、旧島民、その子、孫等の帰島に関するニーズが大きく変化していることも否めな事実です。それでもなお、希望される方がおられることを忘れず、きめ細かな情報の提供やツアーの実施による小笠原諸島の現状の確認などの基幹的な業務を大切に実施してまいりたいと思っております。

第二に、財政基盤の強化です。当協会の財政は東京都及び小笠原村からの補助金と賛助会員からの会費の二つが収入の柱となっております。改めて皆様のご協力に感謝いたします。しかしその一方で、物価の高騰等による財政のひっ迫はじわじわと進んでおり、新しい事業を展開する余地に乏しく、中長期的には協会運営が困難になることも懸念されます。引き続き、国、都、村に対して財政的な支援をお願いすると共に、賛助会員の更なる増加に向けて活動してまいります。また、公益財団法人としての性格を踏まえつつ、新たな収益事業などについても検討を進めてまいります。皆様方におかれましてはご友人への賛助会員のご紹介などご協力頂ければ幸いです。第三に、積極的な広報展開です。今回会長に就任し、都庁でご挨拶をする機会が多くありますが、残念ながら、小笠原協会がどんな課題に取り組んでいる団体かをきちんと理解している職員は、総務局の一部の職員などを除き、かなり少ないのが現実です。都庁職員ですらこのような状況ですから、一般的な認知度についても容易に推測できるところです。小笠原の持つ苦難の歴史や現状等に関する都民・国民の理解無くして、協会の目的達成は望めません。今後は既存の機関紙の発行等に加えて硬軟織り交ぜた手法の検討など、積極的な広報展開に努めてまいりたいと思っております。

もちろん、前記の三点以外にも為すべきことは沢山あるとおもいます。ぜひ皆さまから様々なご意見、ご要望をお寄せいただきたいと思います。令和7年は昭和100年であるとともに、戦後80年の節目に当たります。同時に、小笠原協会も設立60年と還暦を

この6月に会長を退任いたしました。会長在任中は、役員はじめ小笠原関係者の皆さまに大変お世話になり感謝申し上げます。また、とりわけ私を支えてくれました事務局職員の方々に深く御礼申し上げます。私は会長を8年とその前に常務理事を3年務めさせて頂き、合わせて11年間の間にいろいろな方とお付き合ひができていろいろなことを学ばせて頂いて、人間的にも一歩成長することができたこと感謝の気持ちで一杯です。会長として私が一番心掛けたのは、今風な言葉で言えば「旧島民ファースト」であり小笠原協会は旧島民のオアシスであれ、ということ。このために、多くの旧島民の皆さまにご面会し島では戦前に豊かで平和な暮らしをしていたこと、強制疎開での肉親とのつらい別れや内地での厳しい疎開生活などいろいろな想いやご意見をお聞きし、貴重な記録として保存するとともに適宜公開してまいりました。とりわけ、未だに故郷硫黄島に帰島できない硫黄島旧島民の現状を多くの国民に知って頂きたいの思いから、全国離島の祭典である「アイランドアー」に協会のブースを設

け戦前の硫黄島での島民の生活を紹介したり、竹芝船客待合ロビーとおがさわら丸に硫黄島の写真を掲示したりしております。国が硫黄島全島を借り上げ自衛隊基地として使用している現状のなかで、直ちに帰島することは困難であります。旧島民とそのご遺族の方々が少しでも多く故郷を訪ねる機会が増やされることを願うものです。強制疎開から81年が経過し旧島民の皆さまの多くが鬼籍に入られたり高齢化するなどして「旧島民の帰島促進」を掲げる協会の役割も今後変化していくことが求められていくでしょう。幸いにも私の後任の遠藤雅彦新会長は小笠原を含む島嶼全体を所管している東京都の総務局長を務められていた方であり、大所高から協会を適切な方向に導いてくれるものと安心しております。今年、昭和40年に小笠原協会が設立されてから60周年という記念すべき年です。60年というの干支で言いますと還暦であり、元に戻り新しい出発をするということ。小笠原協会も新しい会長を迎え新たな気持ちで新しくスタートすることを祈りいたします。

私は会長を退任いたしました。今後は顧問という立場で小笠原協会発展のためのお手伝いをさせて頂きたいと思っております。会長在任8年間、皆様には大変お世話になりました。誠にありがとうございました。

奥から渡部敦子さん、原ヤイ子さん
「東京新聞デジタル」
2025年8月26日

【任期】 令和7年9月5日、令和11年9月4日 (1名のみ立候補だったため無投票)

前任ご挨拶

前会長 渋井 信和



8月26日、天皇皇后両陛下は、栃木県那須町の那須御用邸付属邸にて、硫黄島旧島民で、現在那須町で暮らす、渡部敦子さん(95)と原ヤイ子さん(94)と懇談されました。島で遭った空襲や疎開時の様子を聞き、天皇陛下は「つらい思いをされましたね」、皇后さまは「よくご無事で」といって話されました。

【議題(1) 令和6年度に小笠原諸島の振興開発に関して講じた施策】
交通通信の確保では、津波等の被災時における集落分断を防止するため父島循環線・行文線の防災道路準備工事に着手したこと。産業の振興開発では、農業用水の安定供給と渇水対策を計画的に進めるため灌漑施設整備を実施するとともに、漁船が安全に停泊できる水域を早急に確保するため二見漁港に突堤整理工事を実施したこと。次に、住宅及び生活環境の整備では、父島清瀬アパートや母島沖村アパートの建替えに向けて建築工事や造成工事を施行したこと。父島西町の老朽水道管の更新及び母島の老朽水道管更新に向けた詳細設計を実施したこと。また、生活排水処理のため清瀬にある中継ポンプ所の改良工事を実施したことなどの説明がありました。

その他、多岐にわたり小笠原諸島の振興開発に関わる各種施策の実進報告がありました。

【議題(2) 小笠原諸島における住宅供給の現況】
昨年度に引き続き、住宅供給の現状について報告がありました。小笠原村による分譲地の整備について、父島においては

天皇皇后両陛下が硫黄島旧島民と懇談

小笠原諸島振興開発審議会開催

7月10日、第104回小笠原諸島振興開発審議会が開催されました。

冒頭、国交省の佐々木国土政策局長、小池東京都知事代理の栗岡副知事より挨拶がありました。

議事では、次のとおり国交省及び東京都の担当者から報告がありました。

【議題(1) 令和6年度に小笠原諸島の振興開発に関して講じた施策】
交通通信の確保では、津波等の被災時における集落分断を防止するため父島循環線・行文線の防災道路準備工事に着手したこと。産業の振興開発では、農業用水の安定供給と渇水対策を計画的に進めるため灌漑施設整備を実施するとともに、漁船が安全に停泊できる水域を早急に確保するため二見漁港に突堤整理工事を実施したこと。次に、住宅及び生活環境の整備では、父島清瀬アパートや母島沖村アパートの建替えに向けて建築工事や造成工事を施行したこと。父島西町の老朽水道管の更新及び母島の老朽水道管更新に向けた詳細設計を実施したこと。また、生活排水処理のため清瀬にある中継ポンプ所の改良工事を実施したことなどの説明がありました。

その他、多岐にわたり小笠原諸島の振興開発に関わる各種施策の実進報告がありました。

【議題(2) 小笠原諸島における住宅供給の現況】
昨年度に引き続き、住宅供給の現状について報告がありました。小笠原村による分譲地の整備について、父島においては

小笠原航空路協議会の開催

東京都総務局行政部振興企画課小笠原振興担当

7月25日に「第14回小笠原航空路協議会」を開催しました。本協議会は、国、都、村で構成され、小笠原諸島と本土間の航空路開設について検討を進めるに当たり、関係者間の円滑な合意形成を図ることを目的としています。

以下、第14回協議会の内容を基に、都の検討状況等について報告します。

1 小笠原航空路に係る令和6年度調査結果検討状況

①航空機の開発状況等調査
洲崎地区において、短い滑走路で運用可能性がある航空機の開発状況等について調査を実施しました。

開発中であったATR42-600Sは、製造メーカーから、2024年11月に市場状況・技術進歩・将来予測を総合的に判断し開発中止との発表がありました。

AW609は、世界初の民間型テイルローター機として開発中の航空機であり、400m程度の滑走路又はヘリポートがあれば離着陸可能であるとされています。この航空機は、飛行機とヘリコプターの機能を併せ持つもので、メーカーによると、型式証明の取得は2025年中となる見込との情報を得ています。

今後も、メーカーや運航事業者等から航空機に関する最新の情報を収集するとともに、小笠原への運航可能性について、引き続き検討を進めていきます。

②飛行場施設

AW609が飛行機(固定翼)に分類された場合を想定し、第13回小笠原航空路協議会で示した滑走路長400m程度の施設案の制限表面範囲等を検討しました。なお、

検討条件として、標高を約25mとし、制限表面への影響を可能な限り抑制した配置としました。

計器飛行方式が可能な施設とした場合、施設の海域への突出があり、転移表面への抵触は野羊山及び飯盛山の一部、水平表面への抵触範囲は野羊山及び振分山の一部となつていきます。

制限表面と地形との抵触状況を確認した結果、飛行機(固定翼)用施設案の制限表面が適用される場合、国立公園区域の第2種特別地域である野羊山が水平表面及び転移表面に抵触することが確認されました。このため、水平表面については、抵触する地形の残置に向けて、飛行の安全性を確保するための検討を行う必要があると考えられます。

これらの検討は、現時点で把握している機体情報に基づくものであり、今後、候補となる航空機についてメーカーが型式証明を取得し、機体性能等が確定した段階で精査し、自然環境の保全と両立した実現可能な施設配置案を検討してまいります。

③水平表面に抵触する地形の残置に向けた検討

水平表面に抵触する地形の残置に向けた検討として、航空障害灯の配置検討及び気流シミュレーションを実施しました。

まず、水平表面に抵触する地形を残置した場合においても、飛行の安全性の確保を図るため、野羊山等へ航空障害灯の配置を検討しました。

航空障害灯の適地選定につきましては、地形条件及び周辺施設との位置関係等により条件を整理しました。

検討の結果、有効半径900mの航空障害灯を野羊山及び振分山の2か所に設置することで、水平表面に抵触する地形の範囲をカバーできるため、より飛行の安全性を確保することが可能であると考えられます。

また、水平表面に抵触する地形を切土した場合において、運航に影響を与える可能性がある、滑走路の横風方向の風速等についてシミュレーションを実施しました。西側から風が吹く場合の気流シミュレーションの結果については、制限表面の切土により、全方位で風速が増す傾向がみられまし

た。特に飛行場周辺では、西側から吹く風が強くなることから、野羊山により滑走路の横風方向の風速が低減される傾向がみられました。

④環境調査

令和6年度は、オガサワラオオコウモリに関する環境調査を実施しました。令和5年度に実施したオガサワラオオコウモリの夜間調査において、有識者にヒアリングを実施した際、父島に生息する個体が昼間にも活動していることが確認されたことから、バトストライクのリスクを検討するため、昼間の飛行傾向について調査したものです。

調査の結果、昼間の飛行高度は地上から350mの広範囲に及ぶものの、主に30～90mの中低高度帯に全体の約73%が集中し、特に40～50m高度での飛行高度が最も高いことがわかりました。

2 小笠原航空路に係る令和7年度調査事項

今年度も、AW609の詳細な機体性能の情報収集や、技術開発の進展も踏まえた他の機体の開発状況等の情報収集を行うとともに、運航事業者の知見等を得て小笠原への

運航可能性に関する詳細な検討を継続します。また、パブリック・インボルブメント(以下「PI」という。)の内容を検討を行ってまいります。

空港計画調査では、想定される航空機に対応した洲崎地区の飛行場施設について、自然環境への影響や運航事業者等の知見を踏まえ、引き続き、配置や構造・工法を検討してまいります。

環境調査では、環境影響評価手続の実施に向けて、天然記念物であるカサガイなどの調査を実施し、環境配慮書案を更新してまいります。

また、世界自然遺産に登録される基準となるOUV(顕著で普遍的な価値)とされている小笠原の固有植物、陸産貝類に対し、航空路開設等が与える影響について、評価手法の検証を行ってまいります。

これらの調査の実施を通じて、貴重な自然環境と調和した航空路案の実現を目指し、関係機関と緊密な連携を図りながら、検討を進めてまいります。

3 小笠原航空路PI評価委員について

都では、小笠原航空路協議会が行うPIの手順や結果について評価、助言を行うこととして、PIの透明性、公平性、公正性を確保することを目的とし、平成20年10月に「小笠原航空路PI評価委員会」を設置しております。

PI評価委員についてこの度新たに、行政手続きに係る法制度に関して専門的知識と知見を有する大串葉子様、航空行政に関して専門的知識と知見を有する海谷厚志様、小笠原の自然環境に関して専門的知識と知見を有する吉田正人様の3名が新任の委員として承認されました。新任委員は、小笠原航空路のPI

活動について、それぞれの立場から貴重なご助言をいただけたものと考えております。



「私と小笠原」第21回 小笠原(自称小笠原観光大使)



小笠原諸島にチャレンジする事となったのは:

奇しくもあの「COVID-19(コロナ)」のお陰なのです。毎年寒さから逃れるため年末年始を過ごす南国旅を諦めていた時に「PCR検査をクリアした者だけを受け入れる」試みを知り「小笠原行こう!」と即決断したのが私達夫婦の小笠原の始まりでした。

「不便」も楽しむ小笠原の魅力にハマる旅

最初の不便は交通機関が発達した現代においてネットも繋がらない24日の船旅「おがさわら丸」だ。だが航海中は動き回る事も出来るし寝て過ごすこともできる。島民や旅行者などとの交流も有りデジタルデトックスも含め24日の船上は以外と楽しめました。

初小笠原は予期せぬ長期滞在で島の日常を体験

小笠原諸島では島の歴史、固有動植物、自然、マリンスポーツ等を期待したが父島到着から予期しない悪天候と地元民も驚く寒さでした。私達は帰宅を焦らず数日ごとに宿をいくつか変えた事で気に入った宿でのんびり小笠

原らしい日々を待つことにした。当然だがコンビニや大型スーパーは無い!個人商店が少数有るだけで、始めて入った時には食品棚がガラ空きなのに驚きましたがおが丸が入港すると一変!牛乳やパン等が棚に並びきれない程となり、それに合わせて島民の買い物ラッシュが始まるのでした。タイミングを外すとお目当ての品はほぼ1週間我慢するはめに。人も物資も船で運ばれて来るためおが丸入港日がイベント様で、日常の買い物でワクワクし商店でパートのお手伝いをするほどにレア体験を楽しみました。

島の強さと弱さを知り、より愛おしくなった小笠原

この島では悪天候であらゆる予定変更は余儀なくされる。現に台風でおが丸出港が変更になり生鮮食品や生活物資が遅れたり、逆に島から出る事が出来ない事も。天候不良で夫と私もほとんど併設の飲食店で籠ってたら人柄の良い宿の家族と地元食材の美味しい料理を目当てに訪れる常連の島民らと仲良くなつて「不動産取得」「ゴミ問題」「物価高」「物不足」など本島とは違うリアルな暮らしなど興味深い話もじっくり聞けた。それでも不便を受け入れ暮らす工夫に関心させられ島民がたくましく、物が豊富ではないことが少し羨ましく感じたりもした。そこでは楽しい話題がほとんどだったが島の医療の話には驚かされた。総合の医療施設が整備していない島では手術は出来ないらしく小さな怪我でも命に関わることや、重い持病を発症すると島では暮らせなくなる

の事だから理解は出来たが頼る親族等が居ないと宿泊施設等で過ごし出産を待つ妊婦も居ると言う。我が家で受け入れても良いかもと本気で思い自宅を整えてる。島まるごと家族のように思えるほど小笠原が好きになってる。

新刊本のご紹介 『死なないと、帰れない島』

酒井聡平著(講談社刊) ☆書評☆ 滝口悠生 (芥川賞作家・硫黄島旧島民三世)



著者の酒井聡平氏は、前作『硫黄島上陸 友軍ハ地下ニ在リ』で、硫黄島の戦没者の遺骨収集が進まない問題を取り上げ、自ら遺骨収集事業に参加しながら、渾身の取材でその背景に光を当てた。

続く本作で酒井氏が迫るのは硫黄島の島民の帰島問題である。本書の前文には日本国憲法第二二条の条文が掲げられている。即ち「何人も、公共の福祉に反しない限り、

居住、移転及び職業選択の自由を有する」。この自由を八十一一年間にわたり奪われていたのが戦中に強制疎開で硫黄島を離れたまま帰島のかんわらない島民である。「死なないと、帰れない」。書名にあるこの不条理を島民たちは生きてきて、いまも生きている。世界的にも例のないこの事態がなぜ生じ、いまなお続いているのか。本書にはその理由が記されている。

日本政府が帰島を不可とする根拠は一九八四年に総理の諮問機関である小笠原諸島振興審議会がまとめた「一般住民の定住は困難」との「結論」だが、酒井氏はその審議会の下部組織である硫黄島問題小委員会の存在を突き止め、定住困難の結論の前提となった同委員会での議論に関する行政文書の開示請求を行う。そして当事者である島民の意見がほとんど顧みられることなく進められた議論の経緯を詳らかにしていく。

そしてさらに歴史を遡り、前作で明らかになったアメリカ力による返還前の硫黄島で行われた核兵器配備や、それを巡る日米間の密約、そして戦勝国であるアメリカ側の思惑に従う形で返還以前から帰島を認めない方針が日米間で共有され、返還後は自衛隊の意向もそこに加わって、帰島を許さぬ状況が継承されていったその証拠を集めていく。

酒井氏は新聞社の記者として働きながら、休日に個人で戦争取材を続け、歴史の風化に抗う「旧聞記者」を自称する。酒井氏は長年に渡り、遺骨収集団のひとつとして硫黄島を訪れ、元島民やその家族らと関係を育んできた。また一方で膨大な資料や文献、公文書等の調査にあたってき

た。本書は酒井氏の「旧聞記

者」としての仕事であり成果である。

本書にある戦後の硫黄島の返還及び帰島問題の歴史は、元島民がいかにして帰島交渉の中心から排除されてきたかの歴史でもある。そこには島民の「視点」がずっと不在だった。そのことを示したのが本書の第一の意義だが、他方読み物としての白眉は、酒井氏だから書きえた疎開に至るまでの島の生活が記されたパートだと思ふ。そこには島民の「視点」がある。島の風や空気が人々の息遣いまで感じられる描写は、旧島民一世の記憶や彼らから様々な話を伝え聞いた二世や三世の記憶や想像力に強く働きかけるだろう。本書をきっかけに、また多くの硫黄島の話、島を思いながら過ごした疎開後の人生の話が語られてほしい、話を聞かせてほしい、と旧島民三世のひとりとして思う。

硫黄島海上慰霊祭を実施

令和7年度硫黄島海上慰霊祭を小笠原海運の協力のもと、6月15日に実施しました。今年度は戦後80周年を迎えたこともあり、一般村民にも慰霊祭の参加を呼びかけ、好天のなか硫黄島島民平和祈念墓地公園の沖合をゆっくりと航行しながら実施しました。式典は、村長の式辞に始まり、参列者で黙とうを捧げた後、旧島民並びに中学生の挨拶、献花、そして「故郷の麗家」を歌い、閉会しました。

【参加者内訳】

総勢	77名
旧島民	20名
硫黄島協会	1名
父母中学生	26名
(教員含む)	
小笠原村民	30名

小笠原村では戦後50年を迎えた年に、「小笠原村平和都市宣言」を行いました。ここに全文を掲載し、村民の皆様にも平和を考える機会としていただければと思います。
【小笠原村平和都市宣言】
平和で豊かな自然の中で暮らす我々小笠原村民は、世界中の人々が平和を分かちあえることを願う。
この願いは、小笠原の生い立ちが物語っている。我々の先人が築いた文化を、歴史的に分断した強制疎開。今なお一般住民の帰島が許されず、遺骨収集もままならぬ玉砕の地硫黄島。このような地小笠原に生きる者として、戦後50年を迎えるにあたり、不戦と恒久平和を誓い、豊かな自然を後世に残すために、小笠原村が平和都市であり、またその使命を全うすることを宣言する。
平成7年8月15日
小笠原村



中学生による誓いのことば



村長式辞

「硫黄島訪島事業(村民向け)」実施報告

国や東京都協力のもと、自衛隊航空機による小笠原村民を対象とした硫黄島放島事業を7月31日に実施しました。当日は好天に恵まれ、参加者は戦前の暮らしを偲んで、生活跡や小学校跡、戦跡等を巡り、拝礼を行いました。その後、硫黄島島民平和祈念墓地公園において献花による旧島民慰霊を行いました。

かつての硫黄島は、南国の恩恵を十分に享受し、豊かで平和な島でしたが、戦争によって荒廃し、さらに旧島民の帰島も叶っていません。村としては今後も、硫黄島訪島事業を行い、村民の皆様にも硫黄島を巡る機会を設けると共に、旧島民の想いに寄り添ってまいります。また、11月には硫黄島旧島民を対象とした硫黄島訪島事業の実施を予定しております。

【参加者内訳】

小笠原村民56名 総勢66名



硫黄ヶ丘にて



祈念公園での献花

【全国硫黄島島民の会(総会)開催】

9月14日(日)川崎日航ホテルにて、第54回全国硫黄島島民の会総会が110名の参加で開催されました。今回は戦後80周年の年となり、全国硫黄島島民の会としても節目の年となりました。

第一部は、定期総会として開会。最初に寒川会長の挨拶で、来年度より、会長を硫黄島島民三世の会会長の西村氏に交代することの発表がありました。

その後、小笠原村長代理の椎名主査、小笠原協会遠藤会長、東京都行政部近藤部長の来賓挨拶がありました。第二部では、戦後80年の平和への祈りを込めて、黙祷後、全員で献花しました。

第三部では、献花後、歓談・会食。「硫黄島」ビデオの上映。全国硫黄島島民の会2世から3世への運営の引継ぎがありました。その後、okeiさん・よしきさんにより小笠原の歌と演奏を披露。そして、篠崎副会長の進行で、新会長となる西村氏から寒川会長へ慰労の花束の贈呈がありました。



最後に全国硫黄島島民の会、副会長の小泉敦男氏が閉会の挨拶をされ終了となりました。今後この全国硫黄島島民の会が益々発展されることを祈念いたします。

母島だより 坂入祐子

タコノ葉細工

鳥でよく目にするオガサワラタコノキは小笠原の固有植物で、気根がタコの足のよう何本も出ているためこの様に呼ばれています。明治時代は林投樹と言われていたそうです。

明治19年に来島した永島辰次郎は、太平洋の島々から移り住んでいた人々がこの葉を利用し敷物やカゴを編んでいたものを見て、もっとよいものが作れるのではないかと価値を高めるための製作を試みます。

葉を海水に漬けたり炙ったり様々な試行の後、茹でて摩擦することにより色が白く、柔らかく良質な葉となることを見つけました。その工夫と改良により林投葉編物は重要財産のひとつとなっ

ていきます。明治20年に巡視で訪れた知事が称賛し勲業を論じました事により明治23年に父島に勲業製造物試験場が作られ、永島辰次郎を教師とし数十人の子女が技術を習得しました。練習生は6ヶ月の編

物伝習を受け等級もつけられました。明治30年には民間事業となり父島母島合わせて100名もの人が製作に携わり、粗製、濫造防止のための規則も作られ、製造の拡張、販路の開発などにより利益も上がっていききました。

いつからタコノ葉細工と呼ばれるようになったのかはよくわかりませんが昭和13年の林業試験専報ではタコノキ葉と呼ばれています。返還後、戦前まで作られていたタコノ葉細工を復活させようと島の婦人達が立ち上がります。戦前編まれていた島のお年寄り達に教わりながら作り始めました。

伝統を踏まえつつ更なる工夫を加え、今では時代に合った様々な作品が作られています。現在タコノ葉研究会という名で活動し父、母島合わせて4、50名が会員登録されています。

タコノ葉細工は、葉の採取から茹でる、干す、伸すなど、編むまでの材料作りの工程に1ヶ月ほどの時間がかかります。作品はお土産品としてJAの売店や内地のイベントなどで販売されています。自分で作ったお弁当箱を20年経った今も使っている人もいます。使い込んでいるためツヤも出て思わず作って見たいと思わせます。昔からの伝統細工が今も引き繋がれ、これからも若い



タコの葉を編む



バック



プレスレット

広告

薬剤師募集

B.I.T.C

小笠原消費生活協同組合

小笠原諸島父島の生協では
薬剤師をさがしています
ご自身またはお知り合いの方
ご連絡をお待ちしています

担当 瀬堀 ロッキ

〒100-2101 東京都小笠原村父島字東町
電話 04998-2-2141

小笠原 Ogasawara Smile Tourism

募集中

小笠原協会 創立60周年記念 2025 小笠原訪問並びに交流ツアー

ツアー期間 10月31日(金)から11月5日(水)までの5泊6日 (船中2泊) (宿の手配はご自身でお早めに)

ツアー企画 公益財団法人 小笠原協会

旅行主催・予約受付

【お申込みは、電話にて小笠原海運株式会社になります。】

小笠原海運株式会社 (東京都知事登録 2-2135)
☎ 03-6381-5499(10時~16時(土・日・祝日を除く))
※小笠原協会での予約受付はしませんのでご注意ください。

募集期間 9月1日(月)~10月10日(金)

募集人員 150名
※期間内に募集人員に達した場合は、受付を締め切ります。

参加対象 旧島民及び賛助会員、小笠原を愛する皆さま

参加費

区分	旧島民・小笠原協会賛助会員		左記以外の方	
	大人	子供(小学生)	大人	子供(小学生)
特2等寝台	66,000円	36,000円	79,000円	42,000円
2等寝台	51,000円	28,000円	60,000円	33,000円
2等和室	45,000円	25,000円	54,000円	29,000円

- 参加費には、おがさわら丸往復運賃、燃料油価格変動調整金、旅行傷害保険料、消費税が含まれます。
- おがさわら丸の上級席をご希望の方は、予約時にお申し出下さい。
- おがさわら丸船中および島での食事代、父島・母島間のははじ丸運賃は自己負担です。
- お申し込み後のキャンセルは、キャンセル料が発生することがあります。

◎小笠原協会ホームページでもご案内

皆様ありがとうございます

〜令和7年5月1日から令和7年8月31日まで

個人賛助会費

Table listing names of individuals who contributed to the association, organized by amount or category.

Table showing weather statistics for September 1st (current) and August (previous year), including temperature, precipitation, and population data.

Table listing names of members and supporters, organized by region or group.

訃報 (Obituary notice) for a member, including details of their passing and funeral arrangements.

ご入会の手順 (Joining procedure) detailing the steps for becoming a member, including application forms and fees.

小笠原協会賛助会費 (Ogasawara Association Support Fee) information, including details on how to contribute.

個人寄付 (Individual Donation) information, including details on how to donate to the association.

小笠原航路時刻表 (Ogasawara Route Schedule)



Table showing the flight schedule for Ogasawara Island, including departure and arrival times for various months.

さあ！母島へ行こう (Let's go to Momiji Island)

母島への航路(ホエールライン) (Ogasawara Island Route (Hoel Line)) information, including details on the route and service.



Table showing the detailed flight schedule for Ogasawara Island, including departure and arrival times for various months.

◆時刻表は今後の状況により変更となる場合もあります (The schedule may change depending on future circumstances).

お問い合わせ先 小笠原海運株式会社 ☎03-6381-5499

お問い合わせ先 伊豆諸島開発株式会社 ☎03-3455-3090